

熊本市 感染症発生動向調査 速報

現在の流行状況

流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)が増えています

熊本市における第14週(4月4日～4月10日)の定点医療機関あたりの患者報告数は、1.27人(定点数16ヶ所、患者報告数19人)となり、前週(0.88人)より増加しました。流行性耳下腺炎は、2～3週間の潜伏期間のあと、唾液腺や耳下腺のはれや痛みを主症状とし、通常、発症後1～2週間で軽快するといわれています。感染力は強く、接触あるいは飛沫感染で感染します。合併症として、1,000人に1人の割合で生じる難聴や、髄膜炎などがあります。

唯一の予防法はワクチン接種です。集団生活に入る前のワクチン接種が効果的といわれています。接種にあたっては、かかりつけ医などにご相談ください。

伝染性紅斑(りんご病)の報告が増えています。

熊本市における第14週(4月4日～4月10日)の定点医療機関あたりの患者報告数は、1.47人(定点数16ヶ所、患者報告数22人)となり、前週(0.88人)より増加しました。伝染性紅斑(りんご病)は、5～9歳の学童に最も多く発生し、次いで0～4歳に多く見られる感染症です。頬がりんごのように赤くなるので、りんご病とも呼ばれています。

【伝染性紅斑(りんご病)について】

○感染経路：咳のしぶきやくしゃみにより感染します。

○症状：頬に発疹が出る7～10日位前に、微熱やかぜ症状などが見られ、1週間くらいでよくなることが多いです。発疹が出て、頬が赤くなるころには感染力はほぼ消えます。大人がかかると、関節痛や関節炎を起こすことがあります。妊娠初期の感染について、流産の危険性も指摘されています。

○治療法：対症療法を行います。

○予防方法：ていねいな手洗いとうがいを行いましょう。特に妊娠している人は流行時には人混みを避けましょう。

期 間		平成28年 第13週		平成28年 第14週	
		3/28～4/3		4/4～4/10	
疾患名	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ 		246	9.84	191	7.96
RSウイルス感染症		3	0.19	2	0.13
咽頭結膜熱(プール熱)		8	0.50	5	0.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		35	2.19	25	1.67
感染性胃腸炎		103	6.44	84	5.60
水痘(みずぼうそう)		1	0.06	5	0.33
手足口病		3	0.19	0	0.00
伝染性紅斑(りんご病)		14	0.88	22	1.47
突発性発しん		14	0.88	9	0.60
百日咳		1	0.06	0	0.00
ヘルパンギーナ		0	0.00	0	0.00
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)		14	0.88	19	1.27
急性出血性結膜炎		0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目)		24	4.80	25	5.00
細菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎		0	0.00	1	0.20
マイコプラズマ肺炎		2	0.40	2	0.40
クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		13	2.60	10	2.00